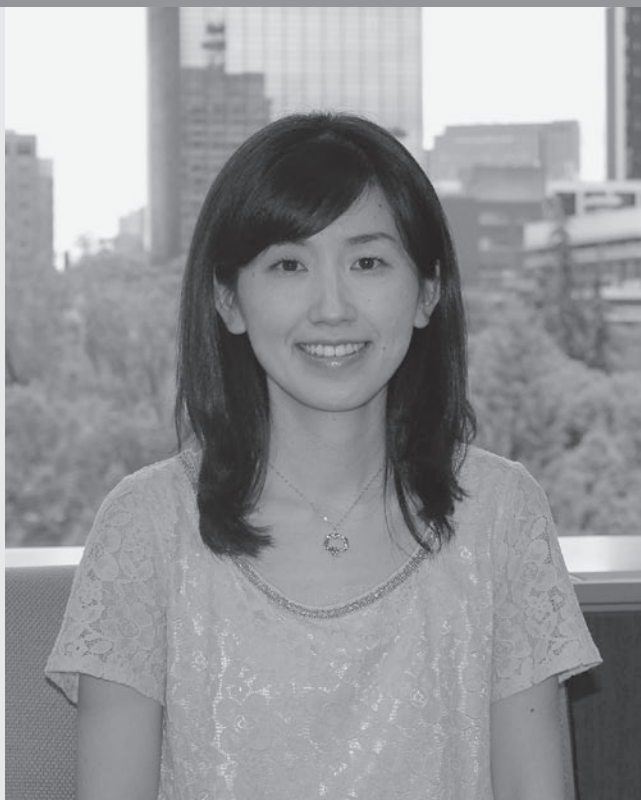


女流囲碁棋士

青葉かおりさん

今月号のインタビューは、女流囲碁棋士の青葉かおりさんです。青葉さんには、昨年9月17日に当会で講演と指導碁を行っていただきました。また、毎年11月23日に開催される法曹囲碁大会に参加され、弁護士らを相手に指導碁を打たれるなど、弁護士との接点が豊富なプロ棋士です。「囲碁ガール」として、囲碁の裾野を広げるため、囲碁の普及活動にも力を入れておられます。囲碁愛好家の方はもちろんのこと、これから囲碁を始めてみたいと思っている囲碁未経験者の方や、囲碁に全くご興味のない方も、ぜひご一読ください。そして、みなさん、囲碁をやってみましょう!!

(聞き手・構成：小峯 健介，高瀬 幸子)



— 囲碁を始められたきっかけは何でしょうか。

父親の影響です。6歳のとき、父から「囲碁と将棋のどちらが好きか」と聞かれました。将棋はルールを知っていましたが、囲碁は初めて聞いたので、「囲碁って何?」と聞き返したら、父は「囲碁だね」と言って、いきなりプロ制度の話を始めました。父から「囲碁は女性も活躍できてすごくよいから、女流棋士になるとよいのではないか」と言われました。父は、かなり初めの段階で私をプロにさせることを意識していたのだと思います。

— それですぐにプロになろうと決意されたのでしょうか。

そのようなことはないです。ただ、近くのアマチュア6段の方に週1回習いに行き、日本棋院に通ってプロ棋士の方と定期的に打ってもらったりしておりましたので、「プロになるんだぞ」という刷り込みを受けていたような感じでした。小学校4年生のときに日本棋院の院生というプロの養成所に入りましたが、そのころには、もう自分はプロになるものだ意識していたと思います。

— 現在の囲碁人口はどれくらいでしょうか。

現在、愛好者の方は統計上の数字で600万人くら

いと言われています。インターネットで囲碁を楽しめる方なども含めれば、実際にはもう少し多いかもしれません。

— プロ棋士の方は何名くらいいるのでしょうか。

約440名です。プロ棋士が所属するのは、私が所属する日本棋院と、関西棋院の2つがあり、日本棋院が326名、関西棋院が114名です(2013年10月28日時点)。

— そのうち女流棋士は何名くらいいるのでしょうか。

日本棋院に61名、関西棋院に16名、合計で77名です(2013年10月28日時点)。

— 囲碁は、将棋とは異なり、男女同一の昇段制度で、性別の区別なく対戦するそうですが、厳しい世界でしょうか。

あまりそのことを意識したことはありません。女性だから厳しい世界ということは特にはないと思います。

— 女性ということで、ハンディを感じることや、逆に有利と感ずることはありますか。

女流棋士は、すごく恵まれていると感じます。女流棋士の場合、普通の一般棋戦に加えて、女性だけの

棋戦にも参加できますので、参加できるタイトル戦も多くなります。また、女流棋士は人数が少ないので、仕事の依頼も多くなります。特にハンディは感じません。

—— 対局にあたり心掛けていることはありますか。

プロの対局は長時間の勝負です。1回の対局で7時間くらいかかります。疲れてきたときや、感情的になったときに、同じようなパターンでミスをしてしまいます。ですから、自分のミスしやすい環境を考えてそれを紙に書いておき、冷静になれるように気をつけています。

—— 先を読むとき、頭の中でどのような映像やイメージが浮かんでいるのでしょうか。

1手ずつ石が動いて先の手を読むというよりは、例えば、パターンA、パターンB、パターンCのような枝分かれがあって、それぞれの一段落した最終形のイメージが頭の中で浮かぶ感じです。

—— 棋譜にあるような、1、2、3…という感じでは考えていないのでしょうか。

頭の中で一手一手動いていくというイメージではなく、何十手かがぱっと動いて、だいたい最終形はこんな感じかなという図が、20～30秒ぐらいで浮かぶ感じです。

—— 何手ぐらい先まで読んでいるのでしょうか。

場合によります。例えば、20手ぐらいで一段落する場合もあれば、3手ぐらいの場合もあります。数百手とかになることもあります。

—— 読む力はどうすれば身に付くものなのでしょうか。

詰碁がよいと思います。大人になってから始められる方でも、簡単な詰碁の問題から始めて、問題を何回か解いて図を覚えることで、だんだん能力が身に付くと思います。

—— 囲碁ソフトの監修や、囲碁ソフトとの対局をされているようですが、現在のコンピューターの実力というのはどの程度でしょうか。

アマチュア6段ぐらいです。現在アマチュアは8段ま

でありますが、アマチュア6段といえば、ゴルフで例えれば、シングルぎりぎりぐらいのプレーヤーでしょうか。

—— コンピューターの読みと人間の読みの違いは感じますか。

例えば、ぱっと見たときに次の手の候補が何十手もあるような場合でも、私たちは、これをとった2手か3手に絞って先を読み、ほかの手はそれ以上先を読みません。これに対して、コンピューターは、人間から見ると無駄読みと思えるような手まで全部読むという点が大きな違いでしょうか。無駄読みをしすぎると速度が遅くなり、それがネックでコンピューターが強くないと言われており、現在は無駄読みを減らす方向でプログラムの開発が進んでいます。

—— 将棋の世界ではコンピューターがプロ棋士に勝つレベルになっているようですが、囲碁の世界でも近い将来プロ棋士が敗れるという可能性はあるのでしょうか。

もちろんあると思います。ここ4～5年でコンピュータープログラムは飛躍的に伸びました。コンピューターの性能が発達するという面と、そのプログラムがもっとよくなるという両面から進化していますので、やはりいつかは人間を越えるのではないかと思います。

—— 1日のうちどれぐらい囲碁のことを考えているのでしょうか。

意識して考えているわけではないのですが、何となく生活とともにありますので、いつも囲碁のことは考えていると思います。例えば、iPadに自分の棋譜などが入っておりますので、暇なときに何となく取り出してちょっと考えてみたりすることはよくあります。歩いていてふと思いつくこともあります。おそらく意識的ではなくとも考えているのかなと思います。

—— 囲碁をする以外には、どのように過ごされているのでしょうか。

最近はランニングを始めたので走ったりして、たまにハーフマラソンとかに出たりしています。あとは、囲碁は座ってする作業ですので、泳いだり、美味しいものを食べたりということが多いです。

—— 囲碁を長く続けるコツ、上達の秘訣を教えてください。

面白さを発見することだと思います。囲碁は、自分でプランを立てて、自分の考え方が正しいかどうかを試せるので面白いゲームだと思います。自分のプランを精密に立てて、戦術レベルや読みレベルでもミスしないようにと考えるのは、すごく面白いと感じます。また、石の形が美しいとすごく楽しいですし、充実感を覚えます。難しいなと思うとなかなか続けられないので、簡単などころから始めて、そのレベルに合った楽しさを見つけていることが、長く続けて上達するコツだと思います。

—— 「石の形の美しさ」というのは、どういうことでしょうか。

囲碁ではいかに効率よく石を配置するかが大きなポイントとなります。効率のよい形は見た目も美しく、効率の悪い形は見た目も美しくない場合が多いです。

—— 囲碁の普及活動として取り組んでいることを教えてください。

国内では、小さい子どもたちや学生に向けた囲碁の普及に力を入れております。地元の小学校で囲碁入門を教えたり、大学で囲碁入門の講義を行ったりしております。囲碁は、自分の頭で考えて判断をして結果が出ますので、考える力がすごく身に付くと思います。

—— 国外ではどのような活動をされているのでしょうか。

夫が海外勤務となったこともあり、一昨年3月まで、アメリカに1年間、香港に半年間、ロンドンに1年間の合計2年半にわたり海外滞在をして、囲碁の普及活動を行いました。例えば、アメリカの大学で囲碁入門を行ったり、ロンドンを拠点に欧州を回って、囲碁を教えたりしていました。

—— 海外の囲碁人口は多いのでしょうか。

囲碁は、黒石と白石と碁盤だけです。国の境なく受け入れられやすいのだと思います。ヨーロッパでは、フランス、ドイツを中心に愛好者がいます。ヨーロッパ碁コンGRESSは、大勢のプレーヤーが集まって、大変大きなイベントになっています。

—— 囲碁は将棋と比較して取っつきにくいという印象がありますが、囲碁の裾野を広げるため、初心者向けに意識していることを教えてください。

いかに簡単に覚えて、すぐ楽しめるかというのがポイントだと思います。普段の囲碁は19路盤ですが、初心者には、盤を小さくして普段の4分の1サイズの9路盤で始めるようにしています。また、初めは、ルールを簡単に分かりやすく説明するようにしています。囲碁のルールは、4つ、5つぐらいしかありませんので、それを教えたら実際にすぐ打ってもらって、疑問が出た時点で教えるようにしています。難しいなというイメージを持たれないように、簡単に始められて、すぐに楽しめるということを意識しております。

—— 初心者に対して分かりやすく説明するために心掛けていることはありますか。

囲碁用語を使わないことです。囲碁用語はたくさんありますが、初めての方はご存じないので、できるだけ囲碁用語を使わずに説明することを心掛けています。

—— 弁護士とは、どのような関わりをお持ちでしょうか。

夫が弁護士です（笑）。

—— それ以外に、どのような関わりをお持ちでしょうか。

毎年11月23日に日本棋院で開催される法曹囲碁大会というものがあります。この大会に、10年以上前にプロ棋士として呼んでいただき、指導碁を打ったり、審判をしたりしたのが弁護士と接点をもつきっかけとなりました。

—— 弁護士の囲碁の実力はいかがでしょうか。

お強い方が多いです。ただ、弁護士の方が打たれる碁は論理的でかなり緻密というイメージを抱いておりましたが、実際に対局してみると、大模様に夢を広げるようなロマン派の方が意外と多いと感じました。囲碁には性格が出ます。陣地にこだわってどんどん貯金を積み上げていくタイプと、先に投資をして将来のリターンが大きな手を選ぶタイプに分かれます。弁護士の方は、将来の投資にかけられる方が多くて意外でした。

囲碁には性格が出ます。弁護士の方が打たれる碁は論理的でかなり緻密というイメージを抱いておりましたが、実際に対局してみますと、大模様に夢を広げるようなロマン派の方が意外と多いなと感じました。

青葉かおり



— どういう方が強くなるのでしょうか。

好きで向いている方が一番だと思います。例えば、子どもたちに教えると、同じ教え方をしてもものすごく強くなる子がいます。碁と合っていて、感覚、感性が碁にすごく発揮される子、碁というゲームにぱっとはまる子がいます。囲碁にとってよい判断基準を生まれながらに持っている子は才能があるのだと思います。1年ぐらいやれば囲碁の才能はすぐに分かります。才能がある子は飛躍的に強くなります。

— 大人になってから囲碁を勉強しても遅いのでしょうか。

そんなことはありません。大人の方はいい環境で教わることが大切です。囲碁はルールだけでは打てません。いろいろなテクニックやら、定石やら、法則があり過ぎて、初心者の方はどの優先順位が高いのか分からなくなってしまうのです。私が考えるおそらく最優先の判断基準は「石の強い、弱い」だと思います。よい環境で判断基準を教わり、最低限の覚えるべき形を教われれば、どなたでも、1～2年でアマチュア初段に届くと思います。そのくらい打てるようになりますと、非常に面白くなってきます。

— これからやりたいこと、夢などがあれば教えてください。

もちろん、棋士として、プレイヤーとしては、タイトル戦で勝つことが常に目標です。それ以外に、新しいタイトル戦をつくれたらいいかなと考えております。

— 新しいタイトル戦というのは。

囲碁を知っている方だけではなく、知らない方に向けても、囲碁の素晴らしさをアピールしたいと考えております。そのために、実際に囲碁を打っている姿を多くの方に見ていただき、これぞ囲碁みたいなのをお見せできる機会をつくりたいと考えています。囲碁は、力があって、歴史もあり、魅力のあるゲームだと考えておりますので、もっと多くの方に知っていただけたらという思いがあります。

— 同じ士業として、弁護士にどのようなイメージをお持ちですか。

社会的に重要なお仕事だと思っています。プロフェッショナルプレイヤーみたいなことを考えますと、ある試験に受かってプロになって、その後個々の力を伸ばしていくということについては、囲碁棋士と似た部分があるのかなと感じています。

プロフィール あおば・かおり

愛知県出身。日本棋院東京本院所属。羽根泰正九段門下。2004年4月から2年間「NHK杯テレビ囲碁トーナメント」の司会を務める。2005年「テレビ囲碁番組製作者会賞」受賞。2008年4月から半年間「NHK囲碁講座」の司会を務める。2010年4月から1年間「週刊新潮」で囲碁コラムを連載。その他、囲碁ゲームソフトの監修も務める。